

「いじめの積み重ねなり自殺の記事を読んで」  
富山国際大学付属高校二年

長谷川 泰枝

学校でいじめ問題が相次ぐ中、この見出しが私の目に大きく飛び込んできた。またかと思う気持ちで胸の心拍数が大きく波打った。以前、自殺した生徒の報道を思い出した。いじめに苦しんでいた生徒だけがよく先生の言葉も大きく関係したのでは、と言った。報道も思いついた。今回も学校は、生徒が苦し

み悩んでいる行為を「いじめ」と認識せず、「自殺」という悲劇を生んでしまった。このような結果になつてしまつてから、あつてこそ失つた命は、帰つてこない。なぜ、こうなる前に誰かが心の SOS に気がついてあげることか。できなかつたのでしようか。いじめを感じるか、遊びと感ずるか。それは、受け取った人が判断することだと思つては、よく遊びの環だ。たと言われますか。それは、いじめた人の言い訳に過ぎません。いじめ防

此対策推進法が成立しても同じことが繰り返され、いじめが消えることはないでしょう。しかし、誰かがその行為に気が付いて、心の支えになつてあげ、見て見ぬふりをせず、親、PTA、先生が心をとつて、全力で守つてほしいと思います。誰かに責任をなすり付け、何も解決しません。苦しみを解きほぐしてあげるのは、ひとりひとりの思いやり、の気持ちです。友だちに、正義の心を持った人は、必ずいるはずですよ。

学校は、体裁より生徒の心の傷を一番に考え、てほしいのです。親は、子ども様子や変化に気が付いてほしいのです。PTAは、親の悩みにやさしく寄り添つて情報の共有が大切だと思えます。自分や自分の子どもが、悪口を言われ、仲間外れになり差別されて、いることを想像してみてください。みんなが、もっといいめに拜する、危機意識があれば、自殺という悲しい結果を少し、でも回避できるのでは、ないでしょうか。